

防災サイバールインフォメーション めいわ

2025/SPR

備蓄品・非常持ち出し品

◎ご自身やご家族の生活に必要なものを！

飲料や食糧、衣類、簡易トイレ、ヘルメット、防寒具、暑さ対策、救急医薬品などが想定されますが、災害時に必要なものは個人で異なります。ご自身の生活を振り返り、1週間の生活に必要なものを準備しておきましょう。

◎備蓄品は1週間分

災害時、支援をうけられるまでの目安として、1週間は何もなくても生活できるだけの備蓄品を準備しておきましょう。

◎非常持ち出し品は「すぐに持ち出せるもの」「持ち運べるだけ」

ご自身の体力や避難する距離により、持ち運べる量は異なります。備蓄したものの中から、すぐに持ち出せる場所に、持ち運べる重さで準備しておくことが大切です。

◎避難は原則徒歩で

液状化やブロック塀の倒壊で車両避難は難しいだけでなく、車両がその後の通行や救助活動の支障となり被害を拡大する恐れもあります。

◎津波避難タワーや緊急避難場所は「逃げ遅れ対策施設」

沿岸部には、津波避難タワー等の津波避難施設が整備されていますが、あくまでも逃げ遅れた方が使用されるものです。これらの施設に避難した場合、浸水している間は降りられず、支援も困難です。原則は、津波が来るまでに、津波の来ないところまで逃げていただくことが重要です。

◎浸水区域外への避難が難しい場合は、津波避難タワーかイオンモール明和屋上駐車場へ

◎それも困難な場合は、大淀小学校・下御系小学校へ

小学校の建物は、地震には耐えても、液状化や津波で被害を受ける可能性があります。最後の手段としてください。

津波避難の考え方（裏面参照）

避難場所と経路の確認を

◎避難先と経路は事前に確認

災害時にスムーズな避難ができるよう、災害の種類ごとに、どこに、どの経路を通って避難するのか、事前に確認しておきましょう。

◎避難経路は複数の選択肢を！

災害によっては、予定していた避難経路が通行できなくなっている場合もあります。複数の避難経路を検討しておくことも重要です。

◎事前に避難経路の安全確認を！

避難の際は、天候が悪かったり夜間だったりして安全確認が十分にできない場合もあります。普段からその経路に倒れてくるもの、落ちてくるもの、水路などが無いか、実際に歩いて確認しておきましょう。

